

## 「JENESYS2019」中国社会科学院青年研究者代表团第1陣(招へいプログラム)の記録 (対象国：中国，テーマ：生態環境保護)

### 1. プログラム概要

中国社会科学院が派遣した「JENESYS2019」中国社会科学院青年研究者代表团第1陣計23名が、5月12日から5月19日までの7泊8日の日程で来日しました（団長：何徳旭（カ・トクキョク）中国社会科学院財経戦略研究院 院長）。

代表团は東京・徳島を訪問。「生態環境保護」をテーマとして環境省および自治体、大学、企業、関係施設等の訪問・交流、視察を通じて、同分野への理解や関係者との親睦を深めたほか、各地で産業・歴史・文化・自然の参観を通じ、包括的な対日理解を深めることができました。また、報告会で帰国後のアクション・プラン（活動計画）について、代表者が発表しました。

### 2. 日程

5月12日（日）

羽田空港より入国

【見学】浅草寺

【オリエンテーション】

5月13日（月）

【講義聴講】環境省（生態環境保護に関するブリーフ）

【訪問・交流】早稲田大学社会科学総合学術院

【歓迎会】

5月14日（火）

【視察】東京スーパーエコタウン

（東京都環境公社、J&T 環境株式会社、中央防波堤埋立処分場）

【見学】パナソニックセンター東京

5月15日（水）

徳島へ移動

【視察】大塚製薬株式会社徳島板野工場

5月16日（木）

【視察】徳島県上勝町（ゼロ・ウェイスト等の取組み）

【見学】灌頂ヶ滝

【文化体験】温泉旅館宿泊

5月17日（金）

【訪問・交流】徳島大学総合科学部

【見学】阿波踊り会館、大鳴門橋遊歩道渦の道

5月18日(土)

【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

5月19日(日)

羽田空港より出国

### 3. プログラム記録写真 (訪問地: 東京都、徳島県)



5月13日【講義聴講】環境省



5月13日【訪問・交流】早稲田大学社会科学総合学院



5月13日【訪問・交流】早稲田大学社会科学総合学院、団員による研究発表



5月13日【歓迎会】外務省アジア大洋州局 深堀裕賢 地域協力室長による挨拶



5月14日【視察】東京スーパーエコタウン



5月15日【視察】大塚製薬株式会社徳島板野工場、ビオトープ見学



5月16日【視察】徳島県上勝町、ゴミ集積所見学



5月17日【訪問・交流】徳島大学総合科学部



5月17日【見学】阿波踊り会館



5月18日【報告会】何徳旭団長が訪日活動を総括

#### 4. 参加者の感想（抜粋）

○1週間の訪日中、日本の美しい景色に心引かれ、また日本の環境整備の取り組みとその成果に驚かされた。環境省のブリーフを通して、ゴミがあそこまで細かく分類できることを知り、東京、徳島の視察では、日本人が環境改善のために行っている努力を目の当たりにした。中国では対照的に、ゴミのリサイクルは極めて安い人件費で行われている。国民の生活レベルが上がっているため、あの方法ではいずれ立ち行かなくなるだろう。日本が行っている方法が、今後の中国にとって唯一の道なのかもしれない。

一般市民であれ、大学教授であれ、日本では誰もが環境に対して「責任がある」と口にする。『菊と刀』を読んだ私は、これこそ日本の伝統文化の一部なのだ知っている。伝統文化は、現代の問題解決にも力を発揮するのだ。中国文化の研究もしている私にとって、この理解は中国に対する自信にもつながった。

また、2名の教授による講義では、環境に配慮した経済について学問的に説明していただいた。早稲田大学 赤尾教授の講義では、持続可能で環境に配慮した経済に欠かすことのできないものは何かを学んだ。徳島大学 眞弓教授の講義では、環境に対して責任ある経済を実現することの利点について学んだ。お二人の話はどちらも奥深いのが分かりやすく、経済学が専門ではない私でも大いに啓発された。

○日本のゴミ処理場の視察が印象に残っている。中央防波堤埋立処分場は長年積み重ねた技術があり、企業も廃棄物の種類により異なる技術を持っており、政府による支援のもと、それぞれ東京都で出たゴミを処理していた。家庭から社会全体の環境保護事業にいたるまで、「Reduce（リデュース）、Reuse（リユース）、Recycle（リサイクル）」の3Rの考えが日本社会には浸透している。一般ゴミの分類もとても細かく、国民が自覚的に生活ゴミを処理するという習慣が既に形成されている。学校教育にも環境保護の理念やゴミの分別方法が組み込まれており、学習やさまざまな実践を通じて、国民のエコ意識を育てている。

徳島県上勝町で見た「葉っぱビジネス」は印象的だった。上勝町の株式会社いろどりは、高齢者の生産者を集めて自然資源である葉っぱを商品化して、地元住民の収入の問題を解決しただけでなく、葉っぱを町の美しい“名刺”に変えた。他の国と同様、日本の高齢化問題は、事業の継承・発展を抑圧する潜在的な要因となっている。少子高齢化がもたらす社会問題は、全力で取り組まねばならない課題であるのは明らかだ。

○1週間にわたり日本を巡り、交流したことで、日本の社会や文化に対する認識が深まった。渡航前から日本文化の体験やネット上の友人からの情報で、ある程度の理解はあったが、自分の足で訪れてみて、この魅力溢れる国をより深く知ることができた。日本の社会の秩序や平穏さ、精緻さが印象に残っている。ここで、いくつか代表的な例を挙げて、訪日の感想を語りたい。ホテルでシャワーを浴びるとき、客室清掃員がシャワーヘッドを壁のほうに向けてくれていることに気づいた。お湯を出したとき、宿泊客にかからないためだ。日本のサービス業はこのような細かな心配りが完璧で、その顧客のことを考えた心遣いは、まさに日本が生産やサービスにおいて追求しているものの姿であり、とても感動した。

もう一つ印象深かったのは、各業界で社会的に正しい行いをするよう務めていることだ。J&T環境株式会社、大塚製薬株式会社はいずれも、企業の社会的責任に基づき、環境保護対策を実施していると強調していた。早稲田大学 赤尾教授も講義の際、社会の一員として自主的に資源の無駄遣いを減らすことは、制度で縛るだけではない、もう一つの社会の持続可能な発展を支える重要な要素であると強

調した。人の行いというものが、日本社会が持続可能な発展を推し進める中で、大事な役割を果たしている。それは外的要因で縛られることと同じだ。確かなモチベーションとして、中国も文明的な生態系の建設において、国民の行いを正し、育てていくべきだ。

○今回の訪問で最も印象に残っているのは、東京スーパーエコタウンを訪問したことだ。まる 1 日を使った視察では、数名の担当者がわかりやすく解説してくれ、辛抱強くこちらの質問に答えてくれたことで、多くの知識を得ることができた。また、東京湾の中央防波堤埋立処分場の視察では、もっと驚いた。東アジア、ひいては世界の最先端レベルのゴミ処理工程は、先進技術をもとに、綿密な計画と、繰り返し積み重ねてきた経験と長年の継続の上にできたものであり、その成果を中国や世界のエコロジー従事者は真剣に学んだほうがいい。

近年、中国政府、ソーシャルメディア、各業界の従事者、一般市民の環境問題に対する関心は高まり続けている。ゴミの回収・処理といった業務を含む環境保護の取り組みも進んでおり、それは大都市・北京に暮らす私も身をもって感じているところだ。しかし、目を向けるべきは、中国のゴミ処理方法には、技術力の後れ、リサイクル率の低さ、ゴミ分類の不徹底（一般ゴミの分類が適当であること、清掃作業員のいい加減な作業）、ゴミ処理業者の健康被害と自然環境の破壊といった問題を孕んでいることだ。2018 年、中国政府は海外からの資源ゴミの輸入禁止策を施行したが、国内ゴミの回収・再利用に関する問題は解決できていないと同時に、東アジア地域の環境保護に新たな課題をもたらしている。中央防波堤埋立処分場の長年の経験は、東アジアおよび世界全体の生態文明建設にとって非常に重要なことで、参考になると思う。

○今回の訪問で、日本の科学技術、法律制度、社会、国民性に対して理解がより深まった。

まず、日本は教育を重視しており、政府、家庭、個人とも教育に多額の経費や力を注いでいる。これは日本の科学者から何人もノーベル賞受賞者が生まれている大きな理由であり、日本の科学技術の進歩に確かな基礎を築いている。同様に、中国政府や中国の家庭も教育を重視しており、一歩ずつ進歩は遂げている。例えば、中国でも近年、ノーベル賞を受けた科学者がおり、国際社会から認められた。

次に、日本は法制度が整っており、社会も効率的に管理されている。環境保護関連の制度を例に挙げよう。日本政府や各界の人士は 1960～1970 年代から既に、環境と調和のとれた経済発展の重要性を認識していた。そして日本は、法律や条令を定めて生態系や環境の保護を進め、発展が持続可能な経済を促進し、良好な成果を収めた。これは世界の国、とりわけ発展途上国にとって良い手本だ。

## 5. 受入れ側の感想

### ◆訪問先関係者

○皆さん質問が多く、積極性・関心の高さがうかがえました。こちらの説明にも熱心に耳を傾けてくださり、こちらもちが良かったです。今回の視察が皆さまの今後の活動において少しでもお役に立てれば幸いです。

○講義及び見学を非常に興味深く関心を持って頂いたことと皆さまからの有意義な質問が多く、充実した時間になったと思う。

○中国社会科学院の方々と知り合いになれたこと、また日中友好会館の方々と知り合いになれたこと。また、日中双方の研究者が報告するということが、学術交流としてとても良かったと思います。

## 6. 参加者の対外発信

8月2日/中国社会科学院 Web サイト

### 中国社会科学青年学者代表团访问日本

2019-08-02 来源：《社科专刊》2019年8月2日总第489期

分享到：[+](#) [+](#) [+](#) [+](#) [+](#)

字号：[大] [中] [小] [关闭] [打印]

**本报讯** 应日本公益财团法人日中友好会館の邀请，第一批中国社会科学青年学者代表团一行23人于近日访问日本。此次访问以“生态环境保护”为主题，先后访问了日本环境省、东京超级生态城、J&T环境株式会社、中央防波堤埋理处理场、大冢制药株式会社德岛板野工厂、德岛县上胜町、日本早稻田大学和德岛大学等，并围绕“生态环境保护和绿色经济”等主题与日方专家学者进行了广泛深入交流。

此次出访使代表团成员对日本环境保护方面的政策措施和成功经验有了深刻认识。第一，日本在环境保护方面的法治化与制度建设值得我们深入学习和借鉴。从日本环境治理经验来看，积极推动环境治理手段及其政策法制化对推动环境保护至关重要。自重视环境保护以来，日本政府就不断推进相关领域的立法工作，并根据实际发展需要不断完善环境保护的法律体系，明确政府、居民、企业等各类社会主体的责任和义务。第二，大力推进环境保护教育、提升公民环保意识势在必行。日本政府在开展环境治理之初就重视对国民及其他社会主体环保意识的培养、宣传和教育，并通过立法的形式来保障环保教育事业的推进。目前，日本民众环保意识普遍较强，且长期进行的环境教育所形成的社会舆论氛围，无形中对企业、个人及其他社会团体形成了一种约束，成为法治手段的重要补充。第三，日本精细化垃圾分类制度可为中国正在开展的垃圾分类工作和无废城市建设提供借鉴。日本垃圾分类强调源头处理，相关法律法规健全、技术手段先进，同时重视宣传教育，分类过程体现出细致认真的工匠精神。第四，日本垃圾填埋、焚烧等处理经验和在中国各级城市具有普遍推广价值，具体包括填埋方式、不同类型垃圾处理方式等。第五，日本将环保理念与经济发展充分结合。例如，日本四国地区上胜町充分利用其优美的自然生态环境，发展特色优势产业，实现了经济发展与环境保护的和谐共赢。这种经济发展与生态保护共赢的模式，对我国具有类似禀赋条件的地区具有一定的参考价值。

生态环境保护牵涉方方面面，是一项复杂的系统工程，不仅需要相关科技革新和发展，也需要政策、法律、社会与国民教育等各个环节的共同努力。哲学社会科学事业的发展，应与国家重大理论和现实问题相衔接，以解决事关国计民生的重大理论和现实问题为己任。代表团成员表示，今后将以所调研了解的情况为起点，进一步学习借鉴日本在生态环境保护方面的经验做法，在我国环境保护法治化与制度建设、垃圾分类与填埋处理经验、环保教育宣传与推广等方面积极贡献自己的力量，为我国经济社会发展、生态环境保护和民生改善等积极建言献策。

今回の訪日活動で学んだ知識を起点とし、日本における生態環境保護に向けた取組みや経験をより深く研究し、中国の環境保護の法制化や制度の制定、ゴミ分類・処理、環境保護教育・宣伝・推進等に役立てたい。そして、中国の経済社会発展、生態環境保護や民生の改善等のために、積極的に提言していきたい。

## 7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表



- ・ 訪日活動についてレポートに纏め、部署内で報告する。
- ・ 訪日中に知り合った人達と連絡を取り合い、学术交流を続けたい。できれば数年後に日本を再訪し、環境方面での学術協力を強めたい。
- ・ 使い捨て用品やポリ袋の使用を減らす、古着を捨てずに寄附する、ペットボトルやダンボールは普通のゴミと一緒に捨てず回収に出す等、家庭内から 3R 活動を始める。日常生活から環境課題に取り組む。



- ・ 部署内の若手を集めて座談会を行い、日本で見聞きした事を分かち合い、日本への理解について話し合いたい。
- ・ 日本で学んだ環境保護政策を研究に活かし、中国の国情と結合させ、日本の成功例を中国で運用させたい。
- ・ 日本文化や社会をより深く理解するために日本語の勉強を始めたい。
- ・ 在中国日本大使館のホームページを日頃からチェックし、政治文化交流等があれば、積極的に参加したい。